

帰りの会で新聞記事を紹介する生徒



武岡中学校（鹿児島市）

## 気になる記事を発表

帰りの会で毎日、生徒1人が気になった新聞記事を発表する「1分間スピーチ」を導入している。2年の伊東愛美さんは「社会への関心が高まった」、吉松大地さんは「みんなの発表を聞くことで、いろいろな考え方を知ることができる」と、生徒にも好評のようだ。授業でも記事をスクラップするなどして活用している。社会では、生徒が教室で学んだこと、国内外で実際に起きてい

ることを比較して、どのような関連があるかを考えるようにしている。総合的な学習の時間では、職業研究や職場体験で学んだことについて、生徒一人一人がB4サイズの新聞にまとめる取り組みも進めている。

担当する穂満久美子教諭(43)は「新聞の活用は、社会について考える思考力の育成につながる。今後は取り組みをさらに広げていきたい」と話す。

（右田雄二）

## かごしま NIE実践校

年齢・肩書きは取材当時

記事から社会の動きを学ぶ生徒たち



樟南高校（鹿児島市）

## 社会考察する力養う

2014年度に立ち上げた「普通科未来創造コース」の授業で、新聞を教材として取り入れている。生徒たちは複数の新聞に目を通し、政治や経済、事件事故などさまざまな社会の動きを学び、自分自身で考察する力を養っている。

元新聞記者の光司智徳教諭(43)が指導。国政から鹿児島 の地域課題まで幅広く取り上げている。生徒は全国紙と地方紙を見比べ、各紙がニュースの価値をどう判断しているかや、記事の狙いについて自由に意見を述べ合っている。

1年藤谷まりあさんは「記事を見て、物事を簡潔に伝える方法を学んでいる。新聞社によって1面に掲載する内容が違うのがおもしろい」と語る。

光司教諭は「新聞を通して、世の中の動きを身近な問題に引き付けて考える意識を持ってほしい」と話した。

（加藤武司）